

相模原看護専門学校令和7年度自己点検・自己評価及び 学校関係者評価の結果について

本校では、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に取り組むため、自己点検・自己評価及び学校関係者評価を行い、評価結果についてお知らせしています。令和7年度の評価結果がまとまりましたので、次のとおり報告します。

令和8年9月1日

公益財団法人 相模原健康福祉財団
相模原看護専門学校
校長 梶本 幸

1 自己点検・自己評価

(1) 評価方法等

令和7年度(令和7年4月～8年3月)の学校教育活動について、教職員による担当者評価及び自己点検・自己評価委員会により評価した。

(2) 担当者評価

令和8年3月25日(水)に実施
校長を含む全教職員

(3) 自己点検・自己評価委員会

開催日 令和8年4月14日(火)、5月1日(金)、6月18日(木)、
出席者 校長、事務局長、看護学科長、学科長補佐2名、事務局次長

(4) 評価項目

「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」における9カテゴリー・125項目を踏まえ、学校独自に設定した10区分・30項目により評価を行った。

(5) 評価基準

30項目について、次の4段階で評価
十分に満たしている：4 満たしている：3 改善の余地がある：2 改善が必要：1

2 学校関係者評価

(1) 評価方法等

学校関係者評価委員会を開催し、令和7年度自己点検・自己評価結果について事務局から説明し、委員から評価結果に対する意見や提言をいただいた。

(2) 学校関係者評価委員会

開催日等 令和8年7月7日(火) 午後6時～7時15分 相模原看護専門学校で開催
出席者 評価委員(4名)
小林 一裕(委員長) 相模原市病院協会看護部長会長、相模ヶ丘病院看護部長
田口 宣広(副委員長) 相模原市医療政策課主査
篠崎 正義 相模原市医師会事務局長

石川 和也 神奈川県看護協会相模原支部理事、相原病院看護部長
欠席者 2名
事務局 5名
校長、事務局長、看護学科長、学科長補佐2名

3 評価結果

別紙のとおり

以 上

令和 7（2025）年度 自己点検・自己評価の概要

1. 自己点検・自己評価（資料 1-1, 1-2）

卒業生数は 74 名、うち 19 回生は 71 名（3 年間で卒業生 88.8%）であった。看護師国家試験は 74 名中 70 名（94.6%）が合格した（前年度は 70 名卒業、68 名<97.1%>合格）。市内就職率は 68 名中 67 名（98.5%, 対前年+2.9）であり、地域に貢献する看護師の育成という本校の理念・目的を十分に果たしたと評価できる。

教員による自己評価については、前年度は看護科の教員のみで行ったが、今年度は事務部も含め全職員参加のワークショップ形式で評価を実施した。結果、全体平均は 3.9（対前年+0.1）で、評価項目区分ⅠからⅩまですべて評価基準 3「満たしている」以上であった。

各評価項目区分の内訳は資料 1-2 を参照。全体の約 8 割（30 項目中 24 項目）が、評価基準 4「十分に満たしている」であったが、評価基準 3 に満たなかった項目は「Ⅲ教育課程・教育活動 6 教育目標を明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか」の 1 項目「2.8」であった。教育目標の明示、卒業時の到達状況の評価・分析とも行っているが、卒業時の到達状況の評価・分析が年度を超えてからの情報共有となり、次年度計画に十分に活かされていなかったことから、評価が前年度よりも 0.2 下がっている。前年度の評価を次年度計画に反映できるように、評価・分析結果の共有時期を設定する。

詳細については資料 1-2 に示す。

2. 学生による評価

1) 看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標（資料 2-1, 2-2）

全体平均は 4.37（対前年+0.24）であった。令和 7 年度はカリキュラム改正時に見直された「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標（看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン）」による項目で調査を実施し、Ⅰ群からⅤ群の看護実践能力項目は各構成要素平均と全体平均が 4.0 以上で、卒業時の到達目標に到達できている。各群の構成要素が変更されたため構成要素間の対前年比較はできないが、各群の評価平均は全項目で前年度を上回っている。

項目別で最も高かったのは「Ⅰ群 ヒューマンケアの基本的な能力 C 倫理的な看護実践 5『看護職としての倫理観を持ち、法令を遵守して行動する』」4.60 で、最も低かったのは「Ⅰ群 ヒューマンケアの基本的な能力 A 対象の理解 1『対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造と機能について理解する』」と「Ⅳ群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力 P 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 45『諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する』」が同率 4.10 であった。

引き続き看護実践能力の育成・強化に努め、卒業時到達目標が全項目「4」以上となるように取り組んでいきたい。

2) 授業評価（資料 3）

ここ数年、授業アンケートの回収率が低く令和 6 年度は 17.2%であったことから、令和 7 年度はタイトルを「授業アンケート」から「授業評価」に変更し、協力依頼文、質問内容、調査方法、結果のフィードバック等について、全面的に見直しを行い実施した。その結果、全体の回収率は 83.7%（対前年+66.5%）と大幅に上昇した。基礎分野・専門基礎分野の科目平均は 3.4、専門分野の科目平均は 3.6、臨地実習の科目平均は 3.7、全科目平均が 3.5 という結果であった。評価方法等の見直しにより、回収率の改善はみられたが、一度に複数科目の授業評価を行ったことで、回答内容の一部に他科目の評価を記載する学生がいたため、評価時期については再度見直し実施していく必要がある。

3) ディプロマ・ポリシー到達状況（資料 4）

「気づく力」「思考する力」「実践する力」「成長し続ける力」の平均は 4.4（対前年+0.1）で、全項目 4.0 以上で、「成長し続ける力」は前年度よりも 0.2 上昇し、前年度よりも下降した項目はなかった。

卒業時に求められる「気づく力」「思考する力」「実践する力」「成長し続ける力」の目標には到達できたと考える。引き続き、全項目「4」以上となるようにしたい。

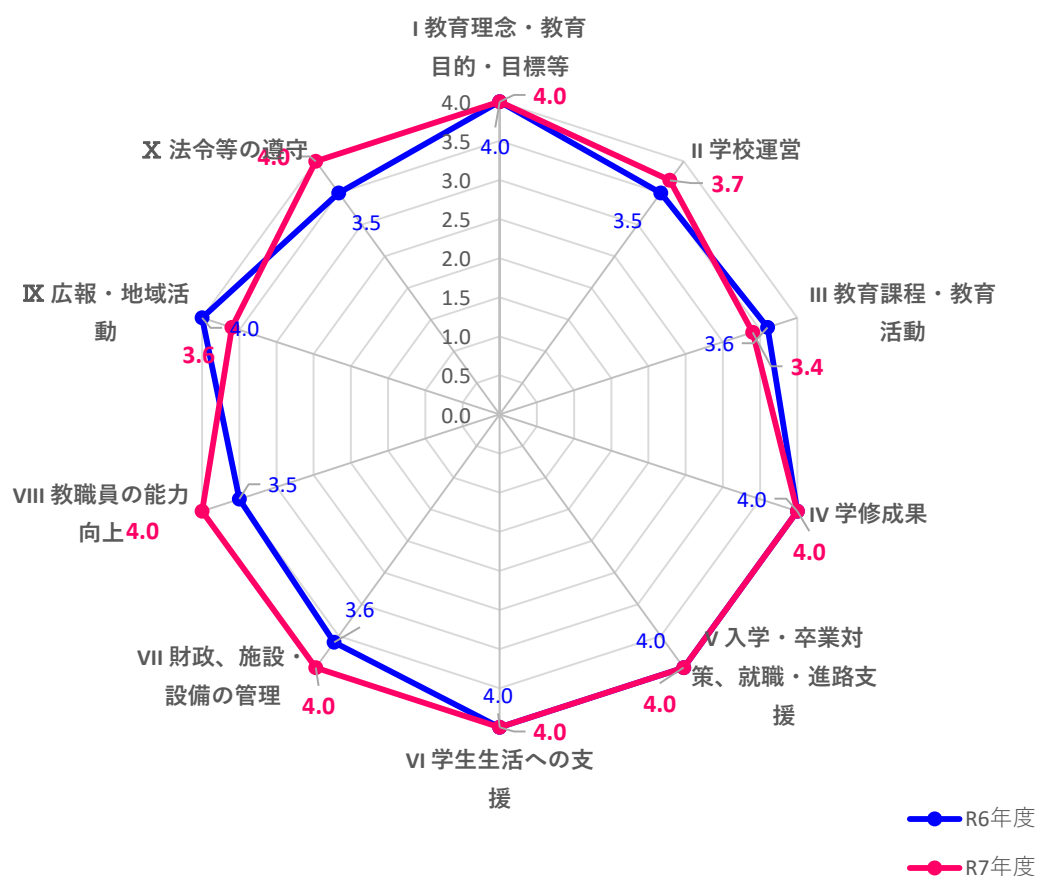
4) 社会人基礎力（資料5）

入学時と卒業時に調査した社会人基礎力の変化では、社会人として必要な3つの力「前に進む力（アクション）」「考え抜く力（シンキング）」「チームで働く力（チームワーク）」とも入学時より+0.3 上昇している。3年間の学生生活の中でのグループ課題や臨地実習での経験が学生の成長につながっていると考ええる。

令和7（2025）年度 自己点検・自己評価（総括表）

評価項目	平均	
	R6年度	R7年度
I 教育理念・教育目的・目標等	4.0	4.0
II 学校運営	3.5	3.7
III 教育課程・教育活動	3.6	3.4
IV 学修成果	4.0	4.0
V 入学・卒業対策、就職・進路支援	4.0	4.0
VI 学生生活への支援	4.0	4.0
VII 財政、施設・設備の管理	3.6	4.0
VIII 教職員の能力向上	3.5	4.0
IX 広報・地域活動	4.0	3.6
X 法令等の遵守	3.5	4.0
平 均	3.8	3.9

4	十分に満たしている
3	満たしている
2	改善の余地がある
1	改善が必要



評価尺度 4：十分に満たしている
3：満たしている
2：改善の余地がある
1：改善が必要

資料1-2

R7年度 自己点検・自己評価（評価項目別）

：評価が3.0未満

区分	番号	評価項目	令和6年度 評価結果	令和7年度 評価結果	区分平均	評価理由	課題・改善対策
Ⅰ 教育理念・目的・目標等	1	社会のニーズを踏まえた教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーが定められているか。	4.0	4.0	4.0	相模原市健康福祉財団の「相模原市民の健康の保持増進に寄与する」目的の実現に向けて、教育理念、教育目的、ディプロマポリシーを定めている。	【課題】 特になし 【改善対策】
	2	教育理念・目的・目標・ディプロマポリシー・特色などが教職員・学生・保護者等に周知されているか。	4.0	4.0		学校説明会や入学時（入職時）オリエンテーション、入学時の保護者会で説明している。また、HPや学校案内パンフレット、学習ガイダンスに掲載・周知し、いつでも学生が確認できるようにipadの学生専用ドライブにも掲載している。今後さらに周知度を高めて行くためには、スポット的な周知以外に機会を捉え繰り返し説明していく。	
Ⅱ 学校運営	3	学校の教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーを実現するための運営方針を策定しているか。	4.0	4.0	3.7	財団の中期経営計画、前年度評価、学生のアンケートを基に翌年度の運営方針を策定している。その運営方針に基づき、さらに各プロジェクトチームや係が活動計画を立案し、全教職員で協働して実現を目指している。	【課題】 ・組織横断的な協働 【改善対策】 ・何事にも当事者意識を持ち、「自分ができること」を考えて取り組んでいく ・コミュニケーションを細やかにとり、連携・協働が円滑にとれるように努めている ・担当者で決定したことはタイムリーに伝え、他との調整が必要な場合は「全体最適」の視点で協議する ・教職員会議の議題を見直し、協議したことを学校運営に反映できるようにする ・教職員予定表に事務部と看護科全職員のスケジュールを可視化する
	4	組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか。	2.6	3.0		学校の重点目標及び課題解決に向けて、各プロジェクトチーム、係、学年担任、チューター間で情報を共有し、互いに協力し取り組んでいる。しかし、小規模グループでの活動は比較的円滑であるが、組織だった協働に課題があった。そのため、R7年度は、協働が円滑にできることを目指し、理事会や管理者会議で決定したことの共有や学生状況・施設間での課題となる事項について報告体制を整えた。そして自己点検・自己評価についても全教職員参加のワークショップ形式で行った。その結果、共通する取組事項に関してのメンバー個々の当事者意識が徐々に醸成されてきているが、多様化する学生に対応していくためにはさらに組織力を高めていく必要がある。	
	5	学校運営の評価が適切に行われているか。	4.0	4.0		年度ごとに各係や領域の評価、自己点検・自己評価、学校関係者評価、運営方針の評価を実施している。結果はHPで公開している。	
Ⅲ 教育課程・教育活動	6	教育目標を明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	3.0	2.8	3.4	学生ガイダンス、HP、学校案内に教育目標・ディプロマポリシー・看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標を掲載し、入学オリエンテーション時に説明している。卒業前に学生にアンケートをとり、教育目標に照らし卒業時の到達度を評価・分析しているが、年度を超えてからの結果共有となっており、評価結果が次年度計画に十分活かされていない。卒業時の到達度の評価・分析の結果共有を1月に行い、次年度計画に活かせるようにしていく。	【課題】 ・「卒業時到達状況結果」の情報共有の時期 ・授業評価の回数、時期 【改善対策】 ・「卒業時到達状況」の調査を12月に実施し、結果を1月の教員会議で共有する ・学生による授業評価の時期・回数について再度見直し実施する 1・2年生：4回/年（7月,11月,1月,3月） 3年生：3回/年（7月,11月,2月）
	7	教育内容は、教育理念・目的・目標・ディプロマポリシーと一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。	4.0	4.0		看護に関わる主要概念と教育理念から教育目的・目標・ディプロマポリシー、教育課程を編成し、各分野・科目の考え方、科目目標、教育内容を策定している。また、教育課程は第5次カリキュラム改正の保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則り編成している。	
	8	体系的なカリキュラム運営が行われているか。	3.1	3.0		保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則ってカリキュラムを編成し、学習ガイダンス（シラバス）に各分野の考え方、科目構成を明示している。教育計画、学科進捗に沿って時間割を作成し実施している。また、各分野、専門領域毎にカリキュラム評価を行い、教育内容の見直しをしている。計画に基づいたカリキュラム運営と実施・評価、見直し後に再計画しているが、学生による評価結果の反映に課題があり、R7年度は評価内容・時期・依頼方法を全面的に見直し実施した。また、結果についても掲示板に掲示しフィードバックした。その結果、学生からの授業評価の回収率は全体でR6年度の17.2%からR7年度は87.3%と大幅に改善した。しかし、一度の多くの科目を実施したため回答内容の正確性に欠ける内容の記載も一部みられたので、評価時期や回数については再度見直ししていく必要がある。また、各学年効果的な運営を工夫していたが、講師の都合等で時間割の変更が多かった。	
	9	評価について公平性・妥当性が保たれているか。	4.0	4.0		授業科目の評価・単位修得の認定、卒業の認定については、学則・単位認定規程で規定し、学生必携に明示している。また、各科目評価については教育ガイダンス（シラバス）・実習要綱に明示し学生に説明している。実習評価については、評価表に評価基準・評価視点を明示し、結果については教員会議で協議したうえで最終決定している。	
	10	実習時の安全体制が整っているか。	4.0	3.3		実習における「安全対策」については、事故防止、事故発生時の対応、災害発生時の対応、実習における健康管理についてのルールを定め「実習要綱」に記載している。実習打合せ時に実習病院の指導者に説明・周知し、学生には実習オリエンテーションで説明している。安全体制は整っているものの、年々学生の学力の低迷、未修得科目を複数抱えて進級する学生の増加、発達障害を抱える学生など、手のかかる学生が増えてきている。一人の学生に注視しすぎて他の学生への指導がおろそかにならないように、今まで以上に教員間・実習指導者との連携を密にし、学生個々のレディネスに合わせた指導と、学生・受持ち患者両者の安全を担保できるようにしていく必要がある。	

区分	番号	評価項目	令和6年度 評価結果	令和7年度 評価結果	区分平均	評価理由	課題・改善対策
Ⅳ 学修成果	11	学生の単位取得にむけた支援を実施しているか。	4.0	4.0	4.0	入学時よりチューター制を導入し、個別の学習相談を行っている。学習低迷者に対しては、苦手科目に関する学習会を企画し、勉強会を開催している。2年生に対しては終講試験前に補講を実施し、3年生には国家試験と再履修科目に関連する補講を実施している。また、卒業年次生に対しては、特別年度内再履修を行い、卒業所要単位を取得できるように支援している。	【課題】 - 看護師国家試験100% - 単位未修得者の増加 - 入学応募者の減少と入試倍率の低下 【改善対策】 - 看護師国家試験対策の強化対策の継続 - 学習低迷者への学習支援の継続
	12	国家試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。	3.9	4.0		国家試験対策プロジェクトチームを作成し、看護師国家試験合格に向けて1年次より年間計画を立て、国家試験対策を行っている。3年次においては、全教員が協力し、今年度は1人2コマ以上の国試補講を実施できた。臨地実習まとめの時間でも国家試験対策を行い、実習領域の知識の定着をはかった。放課後国試特訓、年末年始国試特訓、成績別グループ分けなど学生状況をふまえた取り組みができた。1年次より国試対策を進めたが、その前に単位取得しなければならず、その学習が優先となっている状況がある。115回国家試験合格率は94.6%で全国平均を上回った。	
	13	退学率の低減を図っているか。	4.0	4.0		今年度の退学率は全学年で2.1%（対前年－1.2%）であった。学習が継続できるように気になる学生に対し、早期に保護者を含めた面談を実施するなど対策している。各学年チューター制とり、学生が困ったときに窓口になるようしている。精神的に不安定な学生に対しては、学内カウンセラーの紹介や学校医への相談、クリニックの紹介を行い対応している。	
Ⅴ 入学・卒業対策、就職・進路支援	14	入学応募者確保に努めているか。	4.0	4.0	4.0	6月に高等学校の進路指導担当教員を対象にした進路ガイダンスを開催し8校の先生の参加があった。オープンキャンパスは10回開催し、337名（対前年－88名）の参加があった。。学校HPでの情報発信の他、業者主催の学校説明会に参加し、進路ガイダンス・学校案内を行い、入学応募者の確保に努めているが、結果は出せていない。R7年度の受験者総数は87名（対前年－14名）、受験者総数83名（対前年－13名）、入学者70名（対前年＋2名）であった。新卒者の大学志向と少子化の影響で、専門学校に入学する学生確保は他校でも厳しい状況ではあるが、少しでも受験・入学につながるよう学生確保対策を工夫しながら実施していく必要がある。	【課題】 - 受験・入学につながるような募集活動 【改善対策】 - オープンキャンパスの開催時期、内容の見直し - 学生募集広報活動の強化 - 市内の病院施設で行われる1日看護体験の参加者へ学校案内パンフレット、オープンキャンパス案内配付 - インスタ・SNSの活用 - 桜祭りにブースを出店し、学校案内やノベルティグッズの配布 - 高校の進路指導担当への積極的なアプローチ
	15	就職・進路支援に取り組んでいるか。	4.0	4.0		入学時よりチューター制をとり、個々の学生の進路相談に対応している。また、1階ラウンジに「就職情報」コーナーを設置し、病院からの看護師採用情報、インターンシップのお知らせ等を掲示している。1・2年生を対象に「就職ガイダンス」を開催し、病院施設職員から直接話を聞く場を設けている。3年生に対しては、小論文、面接の練習等にも対応している。R7年度から独）相模原病院の推薦枠を確保し、希望就職者の確保を図った。	
	16	卒業生への支援を行っているか。	4.0	4.0		学校HPに「卒業生専用ページ」を設け、証明書等の発行手続きや学校図書利用について、同窓会からの連絡等の情報発信を行っている。新卒者に対し毎年5月下旬にホームカミングデイを開催し、継続して働くことができるように支援している。また、実習病院にて卒業生に声をかけ相談にのっている。卒業生との連絡手段（チャット）があり気軽に相談できる体制がある。同窓会の活性化に向けて、同窓会担当教員が同窓会の役員の活動を支援している。R7年度は大同窓会を開催し、各回生の交流を図りつつ情報交換を行い、卒業生の今後のキャリア形成に寄与した。	
Ⅵ 学生生活への支援	17	健康管理面、経済面、精神面からの学業継続支援体制が整っているか。	4.0	3.9	4.0	入学時よりチューター制をとり、カウンセラーによる学生相談室を週1回開室するなど、個別に相談しやすい環境を整えている。また、在学中に利用できる修学資金や奨学金等について、学生と保護者に説明し経済的支援が得られるようにしている。学生相談室が利用しやすいように新入生に対しては、入学時にカウンセラーの存在・役割についてのオリエンテーションを行なっている。チューターの面談時にカウンセリングが必要と判断した事例に対しては、カウンセリングを受けられるよう環境の調整を行なっている。臨地実習に備えた感染予防対策として、健康診断後、ワクチン接種がスムーズに実施できるよう指導・接種確認を行い、1年間が必要な感染対策を終了できている。また、実習1週間前から「健康観察シート」を用いた体調管理を行っている。しかし、健康診断後の異常値に対してのフォローアップの確認ができていない状況もあるため、健診後の要観察者のフォローを徹底していく。R7年度よりハラスメント外部相談窓口を設置した。日頃からチューターを中心に学生の健康状態の把握を行い、学業が行えるよう支援している。	【課題】 - 健康診断後の二次検査を要する学生のその後の受診結果、経過の把握が不十分。 - ICT関連に対しての現状把握とルール化、教育が不十分 【改善対策】 - 健康管理行動をとれるような働きかけと再検査の状況を健康手帳に貼付するシステムづくり - 現状を把握していき、検討をする - AI活用のルール化や情報リテラシー教育の強化を行っていく。
	18	学生の自主的な活動を支援しているか。	4.0	4.0		学生自治会担当教員を中心に学生自治会活動やサークル活動が円滑に実施できるようにサポートしている。また、学校祭準備においては学年間の連携が取りやすいように時間割の工夫をしている。今後更に学生が主体的に考えて活動できるようにサポートの仕方を工夫しながら支援していく。	
	19	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	4.0	4.0		学生が意見を出しやすい関係性やご意見箱を設置するなど、意見を出せる場を設けている。最近では、飲食禁止の演習室などを教員確認のもと飲食して良いことにルール変更をするなど対応可能なことに関しては、学生の意見について柔軟に対応している。また、快適な学生生活が過ごせるように、学生自治会が実施した学生アンケートの結果をもとに学習環境の改善を行っている。	
	20	学生の就学ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4.0	4.0		社会人入学者に対しては、教育訓練給付制度が活用できるようにしている。21世紀型能力を有する看護師養成のため、シミュレーション教育やSPを活用した演習などを取り入れ強化している。またiPadの電子テキストや資料の配信等、Wi-Fi環境の整備を行い、各学生が問題なく電子機器を使用できるようにしている。ICT委員を中心に、ICT環境の改善を行っている。一方、インターネットの活用や今後のDX推進に伴って起きる課題（AIでのレポート作成、不適切なSNS投稿等）に対し、情報リテラシー教育の強化を行い、対策を検討していく必要がある。	

区分	番号	評価項目	令和6年度 評価結果	令和7年度 評価結果	区分平均	評価理由	課題・改善対策
Ⅶ 財政・施設・設備の管理	21	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っているか。	3.2	4.0	4.0	毎年2月に次年度事業計画及び予算計画を立て、理事会で承認を得て執行している。また執行した事業については、5月の理事会で前年度の事業報告と決算報告を行い、運用資金については監事2名による監査を受けている。 新年度、予算計画・年間事業計画を教職員会議にて説明し実施している。	【課題】 特になし 【改善対策】
	22	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。	3.0	4.0		学校保健・学校安全計画を策定し、防災訓練等の学校安全関連行事、安全教育、施設・設備点検を実施している。 また、大規模地震、風水害発生時等の休校等措置要領を定め、学生必携に掲載し周知し、非常時の連絡訓練を定期的に実施している。 災害時に備えて2日分の非常食や飲料水等を備蓄している。 災害時の連絡媒体（チャットによる災害時の安否確認）があり、安否確認訓練を定期的に行っている。また、実習時の災害対応について、実習先にも対応について伝え連携を図っている。	
	23	施設・設備及び教材が整い、安全・安心が確保されているか。	4.0	4.0		指定規則の備品は年に1回の定数管理を行い、過不足なく揃えている。教材等、キャビネットや本棚の転倒防止予防の固定を行っている。医療用廃棄物について別に分別し廃棄している。針・薬品等の管理はキャビネットで保管し安全に管理している。また、空調点検や消防用設備の点検なども定期的に実施している。防犯カメラにより監視は従前より実施しているが、さらに増設し、より安全を確保している。	
	24	学生の自主的な学修の場を確保しているか。	4.0	4.0		学校は8:00から19:00まで利用でき、自己学習時に利用しやすい演習室が5部屋ある。また、授業のない時間は実習室や空き教室を利用することができる。各階には学生ラウンジがあり、学生同士の歓談や交流、学習会に利用している。昼休みおよび毎週木曜日の放課後は学校の体育館が利用できるので、身体を動かしたい時の環境は整っている。メディカルオンラインおよび医中誌が自由に文献検索できるようになっている。電子カルテ（模擬カルテ）を導入し、より病院に近い環境を学内で再現でき自主的な学習の場を提供できている。	
Ⅷ 教職員の能力向上	25	教員は、看護教育力向上に努めているか。	3.0	4.0	4.0	R7年度は延べ21人が自己研鑽のため関連する学会・研修会に参加している。また、教務主任研修と中堅研修に参加できた。小児看護領域で、研究成果をまとめ学会に発表している。学会・研修終了後は、研修報告書、資料を回覧し、得た学びを共有した上で、会議で研修報告する試みを始めてタイムリーな意見交換ができる機会ができた。 担当する授業については、各領域内で内容の相談を行い実施している。複数の教員が担当する授業は、授業参観を行い、授業の振り返りを行うことができた。	【課題】 特になし 【改善対策】
	26	教員の能力向上に対する取組を支援する環境があるか。	4.0	4.0		平日の勤務時間内に研修を行ったり、研修費の助成があり、毎年研修計画を立てて学べる環境がある。学会参加も行かせてもらえる環境が整っている。近年、課題となっているパウワウ・アカハラに対する教員研修の実施があった。	
Ⅸ 広報・地域活動	27	学校をPRするために積極的な広報活動をしているか。	4.0	3.3	3.6	高校説明会への積極的な参加、HPの画像を毎年更新し、常に新しい情報を提示できるようにしている。また、相模原市さくらまつりや相武台健康まつり、こども祭り等、地域で行われるイベントに参加し学校のPR活動を行っている。上記の他、看護学校協議会学会にて学会発表を行った。学校PRのために様々な機会での広報活動を行っているが、オープンキャンパスや受験者増にはつながらなかったため、今後は従来の広報活動の他、現代の若者のトレンドを視野に入れたSNSの広報活動にも取り組んでいく必要がある。	【課題】 ・本校の存在をさらに知ってもらいひいては受験者増につながるような広報活動 【改善対策】 ・高校生のみならず、小学校・中学校のキャリア教育に対して看護学校から出向いていく。 ・従来の広報活動の他、現代の若者のトレンドを視野に入れたPRの仕方を検討する ㊦ 図書館雑誌へのバナー広告 ・学校名を入れたノベルティグッズの配付 ・学校公式SNSインスタの開設
	28	地域社会の一員として、貢献しているか。	4.0	4.0		R7年度は98.5%が相模原市内の病院へ就職し、地域医療に貢献している。また、学校祭・健康祭り・こども祭りに参加し、地域との交流を図っている。学校祭では、ふるさと祭りなど、地域の祭りと同時開催を行っている。 看護職復職支援の技術研修を当校で実施しており、運営の協力を行っている。	
Ⅹ 法令等の遵守	29	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4.0	4.0	4.0	関係する法規および看護師養成所指定規則を遵守し運営を行っている。	【課題】 ・外部ハラスメント相談窓口の適正な運用 【改善対策】 ・外部ハラスメント相談窓口の運用状況について状況把握
	30	コンプライアンスを重視した学校運営がなされているか。	3.0	4.0		人権侵害（ハラスメント）防止ガイドラインを定め、学生必携に掲載し、学生に周知している。 個々の学生の対応はガイドラインに沿ってできているが、事象発生時の相談窓口が学内教員のみであったため、R7年度から、外部のハラスメント相談窓口を設置し、より相談しやすい体制を整えた。	

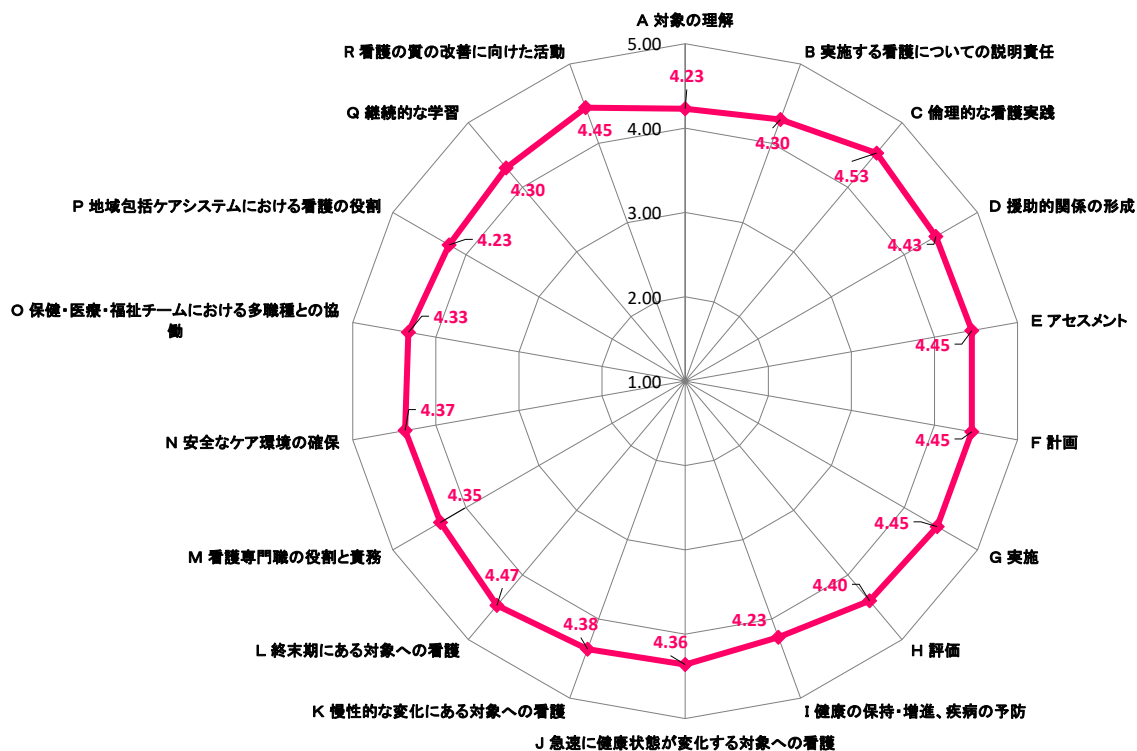
令和7年度卒業生「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」調査結果

5 大変そう思う 4 まあそう思う 3 どちらともいえない 2 あまり思わない 1 そう思わない

看護師の実践能力		卒業時の到達目標			平均値			
	構成要素							
Ⅰ群 ヒューマンケア の基本的な能力	A対象の理解	1	対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造と機能について理解する	4.10	4.23	4.37		
		2	胎生期から死までの生涯各期の成長・発達・加齢の特徴に関する知識をもとに対象者を理解する	4.20				
		3	対象者を身体的・心理的・社会的・文化的側面から総合的に理解する	4.40				
	B 実施する看護についての説明責任	4	実施する看護の根拠・目的・方法について対象者の理解度を確認しながら説明する	4.30	4.30			
	C倫理的な看護実践	5	看護職としての倫理観を持ち、法令を遵守して行動する	4.60	4.53			
		6	対象者の尊厳を守る意義を理解し、価値観、生活習慣、慣習、信条等を尊重した行動をとる	4.50				
		7	対象者の情報の取扱い及び共有の方法を理解し、適切な行動をとる	4.50				
		8	対象者の選択権及び自己決定権を尊重し、対象者及び家族の意思決定を支援する	4.50				
	D援助的関係の形成	9	対象者と自分の境界を尊重しながら関係を構築する	4.40	4.43			
		10	対人技法を用いて、信頼関係の形成に必要なコミュニケーションをとる	4.50				
		11	必要な情報を対象者の状況に合わせた方法で提供する	4.40				
Ⅱ群 根拠に基づき、 看護を計画的に 実践する能力	Eアセスメント	12	健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を系統的に収集する	4.50	4.45	4.44		
		13	情報を整理し、分析・解釈・統合し、看護課題の優先順位を判断する	4.40				
	F 計画	14	根拠に基づき対象者の状況に応じた看護を計画する	4.40	4.45			
		15	看護計画の立案にあたって、対象者を含むチームメンバーと連携・協働する必要性を理解する	4.50				
	G 実施	16	計画に基づき看護を実施する	4.40	4.45			
		17	対象者の状態に合わせて、安全・安楽・自立／自律に留意しながら看護を実施する	4.50				
	H 評価	18	実施した看護の結果を評価し、必要な報告を行い記録に残す	4.50	4.40			
		19	評価に基づいて計画の修正をする	4.30				
Ⅲ群 健康の保持増進、 疾病の予防、 健康の回復に かかわる実践 能力	I健康の保持・増進、 疾病の予防	20	生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を説明する	4.20	4.23	4.36		
		21	環境が健康に及ぼす影響と予防策について理解する	4.30				
		22	対象者及び家族に必要な資源を理解し、健康の保持・増進に向けた生活に関する支援を行う	4.20				
	J急速に健康状態が 変化する対象への看護	23	急速に健康状態が変化する(周術期や急激な病状の変化、救命救急処置を必要としている等)対象の病態や、治療とその影響について理解する	4.40	4.36			
		24	基本的な救命救急処置の方法を理解し、模擬的に実践する	4.30				
		25	健康状態の急速な変化に気づき、迅速に報告する	4.30				
		26	合併症予防のために必要な看護を理解し、回復過程を支援する	4.40				
		27	日常生活の自立／自律に向けた回復過程を支援する	4.40				
	K慢性的な変化にある 対象への看護	28	慢性的経過をたどる人の病態や、治療とその影響について説明する	4.30	4.38			
		29	対象者及び家族が健康課題に向き合う過程を支援する	4.30				
		30	健康課題を持ちながらもその人らしく過ごせるよう、生活の質(QOL)の維持・向上に向けて支援する	4.50				
		31	急性増悪の予防・早期発見・早期対応に向けて継続的に観察する	4.40				
	L終末期にある対象 への看護	32	終末期にある対象者の治療と苦痛を理解し、緩和に向けて支援する	4.40	4.47			
		33	終末期にある対象者の意思を尊重し、その人らしく過ごせるよう支援する	4.50				
		34	終末期にある対象者及び家族を多様な場においてチームで支援することの重要性を理解する	4.50				
Ⅳ群 ケア環境とチーム 体制を理解し 活用する能力	M 看護専門職の役割 と責務	35	看護職の業務を法令に基づいて理解するとともに、その役割と機能を説明する	4.20	4.35	4.32		
		36	看護チーム内における看護師の役割と責任を理解する	4.50				
	N安全なケア環境の 確保	37	リスク・マネジメントを含む医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について説明する	4.30	4.37			
		38	感染防止策の目的と根拠を理解し、適切な方法で実施する	4.50				
		39	関係法規及び各種ガイドラインに従って行動する	4.30				
	O保健・医療・福祉 チームにおける多職 種との協働	40	保健・医療・福祉チームにおける看護師及び他職種の機能・役割を理解する	4.30	4.33			
		41	対象者をとりまく保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解する	4.40				
		42	対象者を含むチームメンバーと連携・共有・再検討しながら看護を実践する	4.30				
	P地域包括ケアシ ステムにおける看護 の役割	43	地域包括ケアシステムの観点から多様な場における看護の機能と役割について理解する	4.40	4.23			
		44	日本における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する	4.20				
45		諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する	4.10					
Ⅴ群 専門職者として 研鑽し続ける基 本能力	Q 継続的な学習	46	看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性和方法を理解する	4.30	4.30	4.38		
	R 看護の質の改善 に向けた活動	47	看護の質の向上に努める必要性を理解する	4.50	4.45			
		48	看護実践に新たな技術やエビデンスに基づいた知見を活用し、批判的吟味をすることの重要性を理解する	4.40				
				平均点最大値(緑)	平均点最小値(黄)	平均点4点以上(青)	全体平均	4.37

令和7年度 構成要素別到達状況

看護師の実践能力		構成要素		平均 値			
				R6年度		R7年度	
Ⅰ 群	ヒューマンケアの基本的な能力	A	対象の理解		4.15	4.23	4.37
		B	実施する看護についての説明責任			4.30	
		C	倫理的な看護実践			4.53	
		D	援助的関係の形成			4.43	
Ⅱ 群	根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力	E	アセスメント		4.12	4.45	4.44
		F	計画			4.45	
		G	実施			4.45	
		H	評価			4.40	
Ⅲ 群	健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力	I	健康の保持・増進、疾病の予防		4.03	4.23	4.36
		J	急速に健康状態が変化する対象への看護			4.36	
		K	慢性的な変化にある対象への看護			4.38	
		L	終末期にある対象への看護			4.47	
Ⅳ 群	ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	M	看護専門職の役割と責務		4.18	4.35	4.32
		N	安全なケア環境の確保			4.37	
		O	保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働			4.33	
		P	地域包括ケアシステムにおける看護の役割			4.23	
Ⅴ 群	専門職者として研鑽し続ける基本能力	Q	継続的な学習		4.16	4.30	4.38
		R	看護の質の改善に向けた活動			4.45	
				総平均	4.13	総平均	4.37



R7年度

令和7(2025)年度 授業アンケート結果

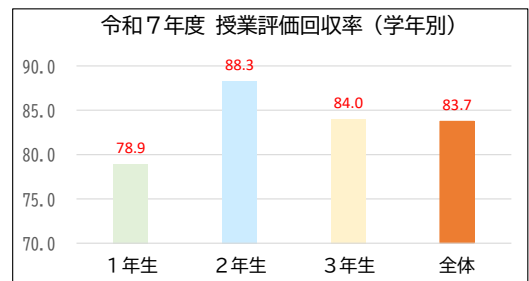
資料3

No	分野	科目名	単位	時間数	受講者数	回答数	回収率	科目評価平均	項目平均	No	分野	科目名	単位	時間数	受講者数	回答数	回収率	科目評価平均	項目平均	
1	基礎分野	哲学	1	15	64	57	89.1	3.4	3.4	48	基礎分野	地域・在宅看護概論	1	15	66	60	90.9	3.3	3.7	
2		倫理学	1	15	65	48	73.8	3.2		49		地域で暮らす多様な人の理解	1	15	65	60	92.3	3.7		
3		心理学	1	30	64	60	93.8	3.4		50		地域・在宅における健康状態別看護	1	30	79	78	98.7	3.7		
4		教育学	1	30	79	70	88.6	3.6		51		訪問看護技術	1	30	80	70	87.5	3.8		
5		社会学	1	30	64	49	76.6	3.5		52		地域・在宅ケアマネジメント	1	15	79	71	89.9	3.8		
6		文化人類学	1	15	64	54	84.4	3.2		53		地域・在宅看護過程	1	15	77	72	93.5	3.8		
7		人間関係論	1	30	66	60	90.9	3.4		54		成人看護学概論	1	30	74	32	43.2	3.3	3.6	
8		英語Ⅰ	1	30	63	54	85.7	3.7		55		セルフマネジメントを必要とする対象の看護	1	30	79	76	96.2	3.7		
9		英語Ⅱ	1	30	79	78	98.7	3.8		56		セルフケア再獲得に向けた対象の看護	1	30	90	74	82.2	3.7		
10		運動実技と理論	1	30	62	50	80.6	3.5		57		クリティカルケアを必要とする対象の看護	1	30	96	71	74.0	3.7		
11		人間工学	1	15	64	59	92.2	3.3		58		エンドオブライフ期にある対象の看護	1	30	80	71	88.8	3.7		
12		情報科学	1	30	65	56	86.2	3.4		59		成人の看護過程	1	30	87	71	81.6	3.7		3.5
13		日本語表現法	1	15	66	52	78.8	3.4		60		老年期を生きる人の理解	1	15	67	56	83.6	3.4		
14		論理学	1	15	79	60	75.9	3.4		61		老年期の暮らしを支える看護	1	30	66	40	60.6	3.6		
15	専門基礎分野	人体の構造と機能Ⅰ	1	30	72	49	68.1	3.4	3.4	専門基礎分野	62	疾病や障害のある高齢者を支える看護	1	30	79	66	83.5	3.5	3.6	
16		人体の構造と機能Ⅱ	1	30	65	50	76.9	3.4			63	老年期にある人の自分らしさを支援する看護	1	30	82	78	95.1	3.5		
17		人体の構造と機能Ⅲ	1	30	67	62	92.5	3.3			64	小児看護学概論	1	30	79	78	98.7	3.8		
18		人体の構造と機能Ⅳ	1	30	69	48	69.6	3.6			65	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅰ	1	30	82	70	85.4	3.8		
19		生化学	1	15	64	47	73.4	3.6			66	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅱ	1	30	80	70	87.5	3.6		
20		栄養学	1	30	65	49	75.4	3.4			67	子どもの発達を支える看護の展開	1	15	80	73	91.3	3.5		
21		感染症と微生物	1	30	65	56	86.2	3.4			68	母性看護学概論	1	30	79	78	98.7	3.7	3.7	
22		病気の発生とメカニズム	1	30	65	59	90.8	3.3			69	正常な周産期の看護	1	30	84	69	82.1	3.8		
23		疾病治療Ⅰ	1	30	67	55	82.1	3.5			70	周産期の異常と保健医療システム	1	30	80	71	88.8	3.8		
24		疾病治療Ⅱ	1	30	68	57	83.8	3.5			71	周産期のウェルネスを支える看護	1	15	78	74	94.9	3.6		
25		疾病治療Ⅲ	1	30	77	55	71.4	3.5			72	精神看護学概論	1	30	67	41	61.2	3.6	3.7	
26		疾病治療Ⅳ	1	30	66	54	81.8	3.3			73	自分らしさを支える精神看護の特徴	1	30	82	71	86.6	3.7		
27		疾病治療Ⅴ	1	30	82	78	95.1	3.4			74	精神看護の基本技術	1	30	79	71	89.9	3.5		
28		疾病治療Ⅵ	1	30	79	67	84.8	3.2			75	精神障害を持つ人の看護の展開	1	15	78	67	85.9	3.9		
29		薬理学	1	30	70	38	54.3	3.6		76	看護の探究	1	15	77	59	76.6	3.2	3.5		
30		臨床心理学	1	15	79	69	87.3	3.2		77	医療安全	1	15	79	72	91.1	3.6			
31		総合医療論	1	15	65	64	98.5	3.4		78	災害看護と国際支援	1	30	79	56	70.9	3.5			
32		社会福祉論	1	30	79	78	98.7	3.6		79	看護管理	1	15	78	53	67.9	3.5			
33		公衆衛生学	1	15	80	72	90.0	3.6		80	統合演習	1	15	79	57	72.2	3.5	3.7		
34		関係法規	1	15	79	57	72.2	3.2		81	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	30	69	68	98.6		3.7	
35		医療事故と看護	1	15	78	71	91.0	3.2		82		基礎看護学実習Ⅱ	3	90	66	49	74.2		3.7	
36		チーム医療論	1	15	79	74	93.7	3.7		84		地域・在宅看護論実習	2	90	79	69	87.3		3.8	
37	専門分野	看護学概論	1	30	68	51	75.0	3.4	85	老年看護学実習		2	90	81	64	79.0	3.6			
38		看護の基本となる技術Ⅰ（関係構築・安全）	1	30	64	59	92.2	3.8	86	成人・老年看護学実習Ⅰ		2	90	81	71	87.7	3.6			
39		看護の基本となる技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1	30	70	52	74.3	3.4	83	成人・老年看護学実習Ⅱ		2	90	83	61	73.5	3.6			
40		看護の基本となる技術Ⅲ（活動と休息・環境）	1	30	64	53	82.8	3.8	87	成人・老年看護学実習Ⅲ		2	90	80	77	96.3	3.6			
41		看護の基本となる技術Ⅳ（看護過程）	1	30	66	39	59.1	3.6	88	成人・老年看護学実習Ⅳ		2	90	80	78	97.5	3.6			
42		生活を整える技術Ⅰ（食事・排泄）	1	30	66	38	57.6	3.8	89	小児看護学実習		2	90	79	60	75.9	3.6			
43		生活を整える技術Ⅱ（安楽・清潔）	1	30	68	59	86.8	3.4	90	母性看護学実習		2	90	80	71	88.8	3.7			
44		診療に伴う技術（与薬・検査）	1	30	66	44	66.7	3.7	91	精神看護学実習		2	90	80	51	63.8	3.8			
45		看護理論	1	15	82	65	79.3	3.6	92	看護の統合実習		2	90	80	75	93.8	3.6			
46		看護研究	1	15	81	72	88.9	3.1	全科目平均									3.5		
47		症状に応じた看護技術	1	30	79	78	98.7	3.7												

: 1年次科目
 : 2年次科目
 : 3年次科目

<評価基準>

そう思う	4
ややそう思う	3
あまりそう思わない	2
そう思わない	1



令和7年度卒業生 ディプロマ・ポリシー到達状況(対前年比)

資料4

		項 目	令和6年度		令和7年度	
気づく力	1	人々の心身の健康と生活への関心がある	4.3	4.3	4.4	4.3
	2	異なる文化や価値観を持つ人々を、かけがえのない人間として尊重できる	4.4		4.4	
	3	対象の思いや苦痛、心身の細かな変化に気づくことができる	4.3		4.6	
	4	地域での暮らしに目を向けることができる	4.4		4.3	
	5	国内外の社会の変化や保健医療福祉の動向に関心を持ち、医療や看護のニーズに気づくことができる	3.9		4.0	
思考する力	6	専門知識をもとに情報の収集や分析ができる	4.1	4.3	4.3	4.3
	7	健康上のニーズの解決に向けて、根拠を持った解決策が立案できる	4.3		4.3	
	8	自らの実践と対象の反応をもとに、適切な評価と今後の課題が明確にできる	4.2		4.3	
	9	専門的知識に基づき、倫理的な判断ができる	4.3		4.3	
	10	地域で暮らしていくために必要な支援が考えられる	4.4		4.3	
実践する力	11	自分の思いを他者にわかりやすく、アサーティブに伝えられる	4.0	4.3	4.2	4.4
	12	対象への気遣いや配慮を行い、相互的な関係性を築くことができる	4.4		4.5	
	13	その人らしい自立した生活に向けて、安全・安楽を考えた援助ができる	4.5		4.6	
	14	自己の心身の健康管理を行い、健康上の問題を解決するための看護が実践できる	4.3		4.4	
	15	他の関係職種との情報交換を行い、連携することができる	4.3		4.2	
	16	地域社会の中で、健康課題の解決に向けて保健医療福祉チームの一員として協働できる	4.2		4.2	
成長し続ける力	17	他の人達と相互に学び合い、共に成長しようとする姿勢がある	4.3	4.3	4.5	4.5
	18	課題の解決に向けて、根気よく取り組むことができる	4.3		4.5	
	19	専門職業人としての自覚と責任を持ち、主体的に学び続けることができる	4.3		4.5	
	20	地域での様々な状況に柔軟に対応しようとする姿勢がある	4.2		4.3	
	21	より良い看護の実践に向けて、チャレンジする姿勢がある	4.2		4.5	
全体平均			4.3		4.4	

前年度よりも+0.2以上上昇

前年度よりも+0.2以上低下

大変そう思う	5
まあそう思う	4
どちらともいえない	3
あまり思わない	2

令和7年度卒業生 社会人基礎力の入学時・卒業時の変化

資料5

項 目			入学時		卒業時				
前に進む力（アクション）	主体性	1	挨拶を自分からすることができる	3.5	3.2	3.1	3.8	3.6	3.4
		2	わからないことをそのままにせず、他者に確認、相談し、解決に向けて取り組む	3.1			3.5		
		3	自分でやるべきことをきちんととらえ、自ら調べ、自発的に取り組むことができる	3.1			3.4		
	働きかける力	4	わからないこと、できないことを柔軟に言葉にし、支援を求めることができる	3.0	3.1		3.3	3.4	
		5	苦手意識のある人にも自分から話しかけることができる	2.8			3.2		
		6	周りと助け合って取り組める	3.5			3.6		
	実行力	7	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって取り組み続けることができる	3.3	3.1		3.5	3.3	
		8	失敗を恐れずに、自分が決めたことは最後までやり抜くことができる	3.0			3.2		
		9	困難な状況から逃げずに粘り強く取り組み続けることができる	3.0			3.3		
考え抜く力（シンキング）	課題発見力	10	指導されたこと、学んだことは記録（メモ）に残すことができる	3.3	3.2	3.1	3.8	3.6	3.4
		11	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる	3.0			3.4		
		12	人の助言を素直に受け止め、自分の課題とすることができる	3.4			3.7		
	計画力	13	問題点を整理して複数の方法から吟味できる	2.9	3.0		3.2	3.3	
		14	重要となるポイントを優先して計画できる	3.2			3.3		
		15	進捗状況により、計画を柔軟に修正できる	3.0			3.4		
	創造力	16	なぜ？どうして？と気づくことができる	3.1	2.9		3.4	3.2	
		17	なぜ？どうして？と気づいたことに対して、考え抜くことができる	2.9			3.2		
		18	参考文献や関連する資料から新しい成果物（アイデア）を作成する	2.8			3.1		
チームで働く力（チームワーク）	発信力	19	事例や客観的なデータを用いて具体的にわかりやすく伝えることができる	2.8	3.0	3.2	3.2	3.4	3.5
		20	苦手意識のある人の話を理解し、自分の意見を伝えることができる	2.9			3.3		
		21	報告・連絡・相談をする習慣が身につけられている	3.2			3.6		
	傾聴力	22	あいづちや目を合わせるなど、相手に話しやすい状況をつくることができる	3.6	3.5		3.7	3.6	
		23	内容の確認や質問などを行いながら、相手の意見を正確に理解することができる	3.4			3.5		
		24	相手の話の腰を折らず、自分と異なる意見をよく聞くことができる	3.4			3.6		
	柔軟性	25	相手の立場に立って考えられる	3.4	3.3		3.6	3.5	
		26	状況に応じさまざまな異なる方法で対応できる	3.1			3.4		
		27	全体に及ぼす影響を意識し、考えながら行動している	3.3			3.6		
	状況把握	28	自分の役割を十分理解して取り組める	3.2	3.2		3.5	3.5	
		29	他の人の良さを引き出し、チーム全体を考え行動する	3.1			3.4		
		30	全体に及ぼす影響を意識し、考えながら行動している	3.2			3.5		
	規律性	31	授業や活動時間の使い方の自己管理ができる	3.0	3.3		3.4	3.6	
		32	提出期限や時間などのルール、約束、マナーを守ることができる	3.5			3.6		
		33	相手に迷惑をかけた時、適切な行動や事後の対応をとることができる	3.5			3.7		
	ストレスコントロール	34	食事、睡眠など健康管理に留意できる	3.2	3.2		3.3	3.4	
		35	人に相談したり、支援を受けることによりストレスを緩和できる	3.2			3.4		
		36	自分で感情をコントロールできる	3.3			3.4		

入学時調査よりも+0.2以上上昇

入学時調査よりも+0.2以上低下

十分にできた	4
まあまあできた	3
あまりできなかった	2
できなかった	1

学校関係者評価委員会における委員からの意見

1 自己点検・自己評価について

- 昨年度の評価委委員会で指摘した課題(SNSに広報活動、外部ハラスメント窓口)への対応が進んでいることは評価できる。
- 自己評価や学生評価の方法を見直すことへの取組みも成果を上げている。さらに取組みだけでなく、結果を踏まえた評価になっており、今後も改善が期待できる。
- 支援を必要とする学生の対応については、病院でも同様の課題を抱えており、共通の課題として対応を進めたい。

2 学生からの評価について

- 授業アンケートについては、回答時期・方法・学生へのフィードバック等の改善が行われ、昨年より回答率が格段に上がっていることは評価できる。
- 学生の自己評価が昨年よりも上がっている点について、様々な課題を抱える学生が増加する中で、この結果出ていることは、教員の努力の賜物である。
- 苦勞を乗り越えた成功体験が学生の「社会人基礎力」の候上位繋がっており学校の教育努力の成果と評価する。

3 その他(学生の確保策等についての意見)

- 学校PRのターゲットをより低年齢層に広げ、小・中学生向けの看護体験やキャリア教育を強化することがよいのではないかと。病院もターゲットの低年齢化を図っている。
- 地域イベントへの参加を積極的に行い、学校の認知度を上げることが必要。
- 学生への丁寧な関わりが本校の強みであることを強調し、PRを行う。

以 上